

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）

～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

音楽科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

音楽科の教科の目標は、今回の改訂では、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指し、その上で、育成を目指す資質・能力として、(1)に「知識及び技能」の習得、(2)に「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)に「学びに向かう力、人間力等」の涵養に関する目標を示す構成としている。また、このような資質・能力を育成するためには、音楽的な見方・考え方を働かせることが必要であることを示している。

音楽科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、音楽表現から感じ取ったことを伝え合い、つくる音楽のよさや面白さにみんなで迫っていくようなやり取りが、知的な深まりと考える。まず、教師は、題材を通して子どもに育みたいことや習得してほしいことから題材構成をする。そして、ねらいに迫った音楽を聴き合わせて、リズムや音の重なりなどの音楽を特徴付けている要素について問いかけ、どんなところがよかったか、よさを問いかけることで気付きをもたせる。そうして、よさや面白さを伝え合い、可視化したり実際に音で確かめたりして、よさや面白さを共有する。教師は、子どもの気付きを音楽の仕組みや要素などかかわらせて返していくことによって、子どもが聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけていく。さらに、友だちの表現のどんなところがよかったか問いかけて友だちの音楽のよさや面白さを共有することで、新たな発想をもち、友だちの表現に価値を見出させていく。このように、友だちの音楽表現から感じたよさや面白さを伝え合ったり、友だちの表現のよさや面白さを見出し、様々な発想をもったりすることが、音楽科におけるつながり、知的な深まりを楽しむ子どもの姿といえる。

以下に、子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけについて述べる。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○全員でパートに分かれて表現し、「やってみたい」を引き出す

前時では、ウンの休みにタタの音を組み合わせたり、短い音にのばす音を組み合わせたりして、このリズムとこのリズムと合わせると面白いということを見出す。そして、つなげ方や重ね方のイメージをさせるために全員で表現し、4つのリズムのつなげ方や重ね方の音楽づくりの見通しをもたせる。そして、どのリズムパートから始めたいか子どもに問い、どのようにリズムをつなげたり重ねたりしていくとよいか考えさせていく。そうして、音で表現したものを図譜に表しながら、「①のリズムには②のリズムをつなげると面白くなりそう」「③のリズムと⑤のリズムを重ねるとウンとタタが重なっていい」など、つなげ方や重ね方の思いや意図を引き出して、全員でリズムを重ねると面白いことを実感させ、意欲を高める。そうして音と図譜とを行き来して「AとBをかけ合うようにするといいね」「順番に重ねていくと

面白いね」など音楽の発想をもたせながら、音を通してつなげたり重ねたりすることのよさや面白さを感じ取らせ、子どもに「やってみたい」と実感をもたせていく。

### ○リズムのつなげ方や重ね方を図譜で示して、新たなアイデアを引き出す

本時の課題である「リズムをつなげ方や重ね方を工夫する」ということはどういうことか、子どもがイメージできなければ課題に向かうことができない。そのため、つなげ方や重ね方のイメージがもてるようにする必要がある。

導入では、どのように音楽をつくっていくか例示した図譜を示す。図譜を示す際、1つの付箋で8拍を示すことや色でパートを表すことをおさえさせる。それとともに、いろいろなつなげ方や重ね方があることの発想をもたせていく。そして、合いの手やくり返しなどの音楽の構造や順番につなげたり組み合わせのよいリズムを重ねたりしている工夫に気付かせる。そうして音で聴くことで、つなげ方や重ね方の工夫がわかり、「このリズムの次は、③のリズムと⑤のリズムを組み合わせたいものをつなげたい」という発想をもたせていく。さらに、休むところをつくったり全員で同じパートをたたいたりしてもよいことに気付かせ、こういうこともできそうと実感をもたせていく。そうして、図譜で音楽を示してつなげ方や重ね方の工夫を共有し、発想を広げられるようにする。

## 2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

### ○図譜から新たな発想を見つける

聴き合う場面では、各グループの図譜を全体で見合い、どの図譜がつなげ方や重ね方の工夫ができてるか子どもに問い、図譜の音楽の構造から聴きたい音楽を選ばせる。そして、なぜその音楽を聴きたいのか問い、図譜に示した音楽の仕組みや構造のよさを引き出す。グループに実際の音で表現させることで「どんな感じがした？」と投げかけ、「1つずつ重ねていくリズムがよかった」「このリズムとこのリズムを組み合わせるとつなげているところがよかった」のように、友だちの音楽のつなげ方や重ね方のよさや面白さに気付かせていく。そうして音で表現したものから図譜で捉えた構造が音楽ではどうなっていたか気付きを共有して、友だちの音楽のよさを見出させていく。そうして見出したよさから、友だちの表現を参考にしたり新たな発想をもたせたりして、つなげ方や重ね方の工夫を広げさせていく。

### ○マイヒーローを見出す

題材を通して、「自分を助けてくれたマイヒーロー」として、友だちのよさに目を向けさせる。友だちが言ってくれたことで思いつかなかったよさや面白さを気付かせたり、迷っていたところを助けてもらったりして、アイデアや新たな発想をくれた友だちを見出させていく。授業の最初に、「今日も、音楽をつくる中でアイデアをくれたり、それいいなと思ったりした友だちをみつけよう」と友だちのよさに目を向けさせるようにする。そして、友だちと音楽をつくる中で、「どうしてこのつなげ方や重ね方にしたの？」と問うことで、「〇〇さんが順番に重ねていくアイデアを言ってくれて、みんなでやってみると、いいリズムになった」「〇〇さんがかけ合うようにリズムをつなげてみようと言ってくれてやってみたら、面白かった」など、友だちにアイデアをもらい、音楽に活かしていくことで友だちのよさに気付けるようにする。また、聴き合う場面では、「友だちのつなげ方や重ね方はどんなところがよかった？」と問うていくとともに、「どんな感じがした？」と投げかけることで、友だちの音楽のよさや面白さなどの工夫に

気付かせ、新たな発想を得たりよさを見出したりして、自分の表現に活かしていけるようにする。

## 第4学年A組音楽科学習指導案

日 時 令和3年10月21日(木) 6時間目

場 所 プレイルーム

指導者 平川 正美

### 1. 題材名 ボディパーカッションでリズムを重ねよう

### 2. 指導観

本題材は、学習指導要領のA表現(3)ア(イ)イ(イ)ウ(イ)の内容を受け、体で表すことのできる音色をみつけ、どのリズムを重ねるとよいか友だちの表現から発想を得たり生かしたりしながら、それらのつなげ方や重ね方を工夫して、ボディパーカッションの音楽をつくる学習である。一人ひとりがどのように音楽をつくるか思いや意図をもち、友だちと協働していろいろな音の出し方や重ね方を試すことで、新たな音への関わり方を見出したり創造性を発揮したりすることを期待するものである。扱う共通事項は、音色、リズム、音の重なりである。

本学級の児童は、これまでにリコーダーで旋律のまねっこをしたり、少し形を変えてつなげたり、ソラシの3つの音を使って即興的に旋律をつくったりする経験をしてきている。それぞれの表現のよさを認め合い、思いや意図を明確にしながらかつくる経験を少しずつ積み重ねてきた。これまでは、ペアや一人で音楽をつくることをしてきたが、本題材では初めてグループで音楽をつくる。体から出る多様な音を使ってリズムパターンを重ねることで、どのリズムを重ねると面白いと考えたり、友だちの音楽から得たアイデアを試したりして、音楽をつくっていく。

指導にあたっては、まず1時間目は、体を打ったりこすったり鳴らしたりして、いろいろな音を試させる。そして、たくさんの音を試す中で、打つ場所によってたくさんの音色があることに気付かせ、みつけた音でリズムを表現させて聴き合わせる。その後、個々に考えたリズムとそれに合うボディパーカッションを発表させ、8分音符のリズムの短い音には短く切れる音を組み合わせたり、4分音符には足やお腹など重い音を組み合わせたりして音色を生かしてリズムを表現することのよさや面白さを共有する。2時間目は、ボディパーカッションでリズムパターンを組み合わせる。5つのリズムパターンの中から、どれとどれを組み合わせるとよいかを考え、ペアで8拍のリズムパターンを重ねる。そして、いい組み合わせとそうでない組み合わせはあるかを問い、全音符のように音が長いものと8分音符のように音が短いものを組み合わせたり、休符のあるものと音のあるものを組み合わせたりすると面白いことに気付かせ、リズムの組み合わせのよさや面白さを見出させていく。本題材では、題材を通して、友だちの表現のよさや面白さに注目させ、新たな発想をもったり自分を変革させてくれたりして自分の勉強を助けてくれた友だちを「マイヒーロー」とし、友だちの表現のよさに価値を見出すことができるようにしていく。

本時は、つなげ方や重ね方を工夫して、グループで音楽をつくる時間である。まず導入で、前時で組み合わせたリズムをふり返らせ、組み合わせたリズムにはどんなよさや面白さがあったかをおさえておく。そして、本時では2人で組み合わせたものを、4人でリズムを組み合わせる音楽をつくることを知らせ、めあてを確認する。本時は、自分たちのつくる音楽をワークシートを使って図譜にし、8拍を1枚の付箋で表すことやパートごとに色を変えることなどを伝える。それから、図譜に表した音楽を全員で表現させる。そして、図譜に表した音楽にはどんな工夫があるかを問い、呼びかけとこたえや反復などの音楽の構造やつなげ方や重ね方の工夫に気付かせる。そうして、全体やいくつかのリズムパートを重ねてリズム

ムをたたくところもあれば、1人でたたくところもつくってよいことや、1つのリズムを順番にリレーでたたくといったつなげ方もあることなど、つなげ方や重ね方の工夫に気付かせ、音楽をつくることの見通しをもたせていく。グループで音楽をつくる活動に入ると、自分たちの音楽を図譜に表しながら、つなげ方や重ね方を試させていく。話してばかりいるグループが見られた場合、実際に音で聴きながらつくるよう声がけをし、どのようなつなげ方や重ね方の工夫ができているか、図譜と実際の音とを行き来して確かめさせながら音楽をつくらせていく。そして、友だちの音楽を聴き合う場面では、各グループの図譜をみせてどの音楽を聴きたいか問い、子どもに聴きたいグループの音楽を選ばせる。図譜から子ども自身に聴きたい音楽を選ばせることで、友だちの音楽のつなげ方や重ね方の工夫に気付かせ、音楽のよさを見出させたり深めさせたりする。そうして、図譜から音楽の構造に気付かせたり実際に音で聴いたりして、友だちの音楽のつなげ方や重ね方のよさを共有し、新たな発想をもたせられるようにする。再度音楽をつくる場面では、友だちの音楽でいいなと思ったことは積極的に取り入れさせ、友だちの音楽から聴き取ったことと感じたことを活かして、再度音楽づくりに向かわせる。本時の最後では、友だちの音楽のつなげ方や重ね方のよさから、新たな発想や重ね方の工夫についてアイデアをくれたり、参考になったりした自分にとっての「マイヒーロー」はだれか考えさせる。そうして、自分の音楽に活かしたことやヒントをくれた友だちのアイデアや工夫とともに自分の学びを振り返らせることで、本時の自分の変容が自覚できるようにする。

### 3. 目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音色やリズムのつなげ方や重ね方の特徴やそれらの面白さに興味・関心をもち、リズムアンサンブルをつくる学習を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p><b>思</b>①音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。</p> <p><b>思</b>②音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> ボディパーカッションのリズムのつなげ方や重ね方の特徴やそれらの面白さに興味・関心をもち、リズムアンサンブルをつくる学習を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

## 5. 指導と評価の計画（全4時間扱い）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1時	◎体で表せる音を見つけよう。 ○体で表せる音を試す。 ・体を打ったりこすったり鳴らしたりして、いろいろな音を試す。 ・みつけた音をリズムで表現する。 ○ペアでリズムを重ねる。 ・8拍のリズムパターンをボディパーカッションで表現する。 ・アイデアを全体に紹介する。 ・音色とリズムについて、わかったことや気付いたことを発表する。	知 観察・記述・発言		
第2時	◎ボディパーカッションでリズムパターンを組み合わせよう。 ○ウンのときにタタを組み合わせると面白いことがわかる。 ・ペアで、8拍のリズムパターンを重ねる。 ・5つのリズムパターンから、どのリズムパターンを組み合わせるとよいか考え、試す。 ・つくった音楽を聴き合う。 ・組み合わせると面白いものとそうでないものがあることに気付き、リズムの組み合わせのよさや面白さがわかる。		思 ①観察・記述・聴取	
第3時 (本時)	◎4人でリズムのつなげ方や重ね方を工夫して音楽をつくろう。 ○グループでリズムパターンのつなげ方や重ね方を工夫して音楽をつくる。 ・全体でつなげ方や重ね方を工夫した音楽をやってみることで、つくる音楽のイメージをもつ。 ・つくる音楽を、付箋を使って図譜で表す。 ○他のグループの音楽を聴く。 ・他のグループの図譜をみて、聴きたい音楽を選ぶ。 ・友だちの音楽を聴き、つなげ方や重ね方の工夫に気付く。 ・友だちの音楽から得た発想を自分たちの表現に活かして音楽をつくる。		思 ②観察・発言・記述	
第4時	◎グループでつくった音楽を聴き合おう。 ○つくった音楽を聴き合う。 ・つなげ方や重ね方の工夫を見つけながら聴く。 ・友だちや自分のグループのつなげ方や重ね方の工夫や表現のよさをふり返る。 ・友だちのいいところを見つけ伝えて伝え合う。	技 観察・発言・記述		態 行動観察・記述

## 6. 本時の指導（第3／4時）

### (1) 本時の目標

- ・リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループで音楽をつくる。

### (2) 評価規準

- 思②音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

(3) 展 開

学習活動 ・ 児童の反応例	○教師の働きかけ □評価規準 (評価方法)
<p>1. 前時の学習をふり返り、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・②のタタのリズムと④ののばす音を組み合わせると面白かった。</li> <li>・③と⑤のリズムを組み合わせると、ウンの休みの時にタタのリズムをたたいてリズムがよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時で組み合わせたリズムを思い出させ、どんなよさや面白さがあつたかふり返る。</li> <li>○全音符のように音が長いものと8分音符の音の短いものを組み合わせるよいことや、休符と音のあるものを組み合わせるとよいことをおさえておく。</li> </ul>
<p>4人でリズムのつなげ方や重ね方を工夫して音楽をつくろう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげ方や重ね方を工夫したら、面白い音楽ができそう。</li> <li>・図譜にした音楽は、どうやってつなげたり重ねたりしたか、わかりやすいな。</li> </ul> <p>2. グループで、音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人と全員でかけ合うようにしたら面白そう。</li> <li>・順番に1つのリズムをリレーするのもよさそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図譜にした音楽を全員で表現して、グループで音楽をつくることの見通しをもたせる。</li> <li>○自分たちのつくる音楽を、ワークシートを使って図譜にすることを伝え、1枚の付箋が8拍を示すことやパートごとに色を変えることをおさえる。</li> <li>○可視化した図譜にはどんな工夫があるかを問い、呼びかけとこたえや反復などの音楽の構造やつなげ方や重ね方の工夫に気付かせる。</li> <li>○自分たちのつくる音楽を、付箋を使って図譜に表し、つなげ方や重ね方を試させていく。</li> <li>○なぜ、そのようにつなげたり重ねたりしたか理由を問うて、つなげ方や重ね方について子どもの思いや意図を引き出す。</li> <li>○グループで音楽をつくる際、話し合いばかりしているグループが見られた場合、音で試してつくるよう声がけをする。図譜と実際の音とを行き来して確かめさせながら、音楽をつくらせるようにする。</li> </ul>
<p>3. 友だちの音楽を聴き、友だちの音楽のよさを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの音楽は、1つのリズムを順番にくり返していて、面白かった。</li> <li>・友だちの音楽を聴いて、呼びかけとこたえになっていてつなげ方がよかった。</li> <li>・考えもつかなかったリズムのつなげ方や重ね方を友だちがやっていて、そんなアイデ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各グループの図譜をみせてどの音楽を聴きたいか問い、子どもに聴きたいグループの音楽を選ばせる。そして、なぜその音楽を選んだのかを聴き、図譜で捉えた音楽の構造のよさを表出させる。また、どうして聴きたいのかも問うことで、子どもの思いや意図を引き出す。</li> <li>○友だちの音楽を聴き合った後、聴いてみてどんなところがよかったか、工夫していたことは何かを問う。</li> </ul>

アがあったかとびっくりした。

#### 4. 再度音楽をつくる。

- ・友だちのやっていたつなげ方を試してみたい。
- ・友だちのグループの重ね方がよかったから、真似してみよう。

#### 5. 本時をふり返る。

そして、図譜でいうとどこに表れているか確かめさせ、図譜で捉えた構造が音楽でどうなっていたか共有する。図譜と音楽とを行き来することで友だちの音楽のよさを深めさせる。

○友だちの音楽のよさや面白さを表出させ、新たな発想をもたせられるようにする。

○友だちの音楽でいいなと思ったことを積極的に取り入れようとしているグループを称賛し、友だちの音楽から聴き取ったことと感じたことをグループで試させて、自分たちの音楽づくりに向かわせる。

○新しいアイデアはみつかったか問いかけ、どういう新たな発想をしているか見取り、価値付ける。

**思**②音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(観察・発言・記述)

○つなげ方や重ね方のアイデアをくれたり参考になったりした友だちや、つなげ方や重ね方をどう工夫できたかをふり返らせ、本時の学びを共有する。